

共通科目	腫瘍内科学特論 Advanced Study & Research for Medical Oncology		DM_3012	開講	毎年・ <b>隔年</b>
				区分	選択
単位	1単位	科目責任者	関順彦 病院教授 (板橋・内科)	授業形態	講義・演習

概要	欧米でがん診療領域を広く担当する領域として独立しているmedical oncology (臨床腫瘍学)は、臓器横断的ながんの体系的な知識を基盤とする新しい分野である。次々に臨床導入されている分子標的薬では、分子マーカーによる薬剤選択を活用し、各臓器横断的ながん薬物療法が急速に展開されている。
到達目標	本科目では癌腫や病理組織型を超えた分子マーカーによる個別化治療を統合的に修得することを目的としている。総合内科専門医レベルの技量を基盤として、さらにながんの専門的診療を修得している医師、がん患者の日常診療を担当する医師を育成し、がん薬物療法専門医資格、日本癌治療認定機構がん治療認定医資格などの獲得を目指す。
事前事後学修	最新の国際的な診療ガイドライン(ASCO、NCCNなど)を参照し、引用されている最新の大規模第III相試験成績論文を1本以上読んでおく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。
評価方法	講義・演習の課題(50%)、演習における報告発表(30%)、討議内容(20%)を評価する。
教科書・参考書	教科書・参考書:新臨床腫瘍学、入門臨床腫瘍内科学、がん治療エッセンシャルガイド、ICR臨床研究入門、その他随時資料配付
履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

No.	月日	時間	講義タイトル	担当者	備考
1			がん薬物療法総論	関順彦 病院教授 (板橋・内科)	大学棟本館 1階105教室
2			がん薬物療法各論	渡邊清高 准教授 (板橋・内科)	〃
3			がん薬物療法の副作用とその対策	市川靖子 講師 (板橋・内科)	〃
4			がん免疫の基礎研究と創薬開発	安部良 特任教授 (戦略的イノベーション研究センター)	〃
5			分子標的治療総論	衣斐寛倫 講師 (外部講師)	〃
6			臨床試験論文の読み方	横田 勲 講師 (外部講師)	〃
7			臨床試験と生物統計	山口拓洋 講師 (外部講師)	〃
8			がん治療におけるチーム医療の役割 (血液がんを例に)	西森久和 講師 (外部講師)	〃
9			日本における新規抗がん剤導入プロセス	永井純正 講師 (外部講師)	〃
10			腫瘍免疫学と臨床試験	醍醐弥太郎 講師 (外部講師)	〃
その他の演習・セミナー等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腫瘍内科演習</li> <li>・定期緩和ケア研修会 ・帝京がんセミナー(不定期) ・がん緩和医療(年2回)</li> <li>・厚生労働省認定研修会「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」 研修規程を遵守して出席する 厚労省修了証交付</li> <li>・がんサーボード 腫瘍内科演習1がんサーボード(肺:毎月1回水曜日、肝胆膵:毎月1回第1月曜日) 腫瘍内科演習2がんサーボード(乳腺:毎週1回火曜日、消化管:毎月1回第4月曜日)</li> </ul>				

※講義日程の変更・追加の連絡等がある場合、登録されているメールアドレスに連絡します。